

(茨) 21/9/22

県内総合

盛り土13カ所要是正

独自調査 県と市町村、指導へ

静岡県熱海市の大規模土石流を受け、本県が独自に実施した盛り土や急傾斜地に関する点検の結果がまとまり、県は21日、人家への甚大な影響はないものの安全確保のため是正が必要な箇所が県内に計21カ所あったと発表した。無許可での盛り土やのり面のひび割れなどで、県は「速やかに対応が必要」と認識。所管によって県や市町村が指導している。

県は優先順位の高い緊急点検と、それ以外の点検を計194カ所で行った。是正が必要とされるのは石岡、日立、水戸、鹿嶋など14市町の計21カ所だった。

このうち盛り土は、最も

多い13カ所に上る。県によると、条例に基づき県が市町村の許可を取得していない「違法状態」や、土の盛り方が急勾配で不適切なケースなどが見られた。石岡市上首では盛り土が道路に面し、崩れて道を大きく可能な性があることから要是正とした。

太陽光発電施設4カ所で、のり面のひび割れ、土砂流出、緑化不足などが確認された。日立市滑川町の傾斜面にある施設では、必要な排水設備がないとして既に指導し、整備が始まっている。ほか4カ所は、モルタルなどで土砂崩れ防止の措置が行われたのり面で、ひび割れが見つかった。

7月に発生した熱海市の大規模土石流は、発生源にあった大量の盛り土が流出したとされる。独自の点検を決めた県は、衛星写真の確認や市町村からの情報提供などを踏まえ、人家に影響する恐れがある箇所を抽出。各担当課が市町村と協力し、今月上旬までに点検を終えた。(今井俊太郎)

産廃処分場の浸出水処理巡り県に質問状 日立の市民団体

県関与の新たな産業廃棄物最終処分場を日立市諏訪町の採石場跡地に整備する計画を巡り、反対する市民団体は21日、県に対し、埋め立てたごみの中を通った雨水など(浸出水)の処理に関する公開質問状を提出した。

提出者は「県産業廃棄物最終処分場建設に反対する

連絡会」(荒川照明代表)。質問状では、豪雨時の洪水対策に関連し、想定する降雨量のほか、浸出水処理施設の調整槽の容量と、槽を設置する場所や標高を尋ねている。

また、狭い掘削跡の谷底に廃棄物を埋め立てる場合、槽の底辺部が激しい地下水の流れにさらされると指摘。その上で、「廃棄物の埋め立て槽の浸出水を自然落下で、槽より低い位置にある処理施設に導入するような配置を検討する余地があるか」と質問し、回答を求めた。